

私が、愛媛県のお寺で修行をしていた時のお話です。修行の場では、鳴らし物と呼ばれる音によって、修行している全員に時間を知らせたり、法要の進行の合図をします。

鳴らし物として使われるのは、大きささまざまな鐘や太鼓です。始めの頃は、鳴らし物を「打ち損じない様に」とか、「打つ間隔に気を付けない」と緊張感を持って鳴らしていました。しかし、修行が半年、一年と進むと、

それほど緊張しなくなり、ただきれいな音で鳴らしたいと思うようになりました。

ある時、老師様がこんなことをおっしゃいました。「日々の修業は、起きる時間、朝昼晩のお勤め、作務と、同じ事の繰り返しに感じられるかもしれない。だが一日として同じ事はない。なぜなら、目の前の瞬間、瞬間は、ただ一度きりのその時だけに訪れる一瞬で、後にも先にも二度と訪れる事はないからです。その覚悟を持って、修行生活を送って頂きたい。例えば鳴らし物の鐘を打つ時にも、そういった気持ちで一打一打を打って下さい。その一打の音に仏様が宿るように、そしてその音を聞いた人の心にも響くように」と。

私はこのお話を聞いて、「大きな法要や特別な修行だけが大切な時ではなく、目の前の一瞬、一瞬が、一度きりのかけがえのない時間であり、一瞬たりとも、後悔しないように向き合って過ごしていく積み重ねが、修行では大事なのだ」と心を改める事が出来ました。

春、夏、秋、冬と、毎年同じように季節は巡って来ますが、今年 出会えている春は、昨年の春とは同じようでありながら同じではないのです。気温、色、香りにも違いがあり、私自身も一つ年を重ねております。いろいろな縁によって出会わせて頂いている目の前の一瞬、一瞬。二度とは訪れる事のない時間であるという気持ちで、一日、一日を丁寧に過ごして頂ければと思います。